

1 日 時 平成26年12月22日（月）午後1時～2時30分

2 場 所 市役所議会会議室（本庁舎3階）

3 出席者

（1） 委員14名 欠席4名 （松田委員、生田委員、藤原委員、遠藤委員）

（2） 事務局3名（美船課長、毛利企画員、竹田主任）

（3） オブザーバー4名（琴浦町：遠藤企画情報課長、北栄町：谷口政策企画課長、湯梨浜町：森企画課長補佐 広域連合：松井企画員）

4 会議の概要

会議次第に基づき、委員の紹介等の後、会長及び副会長の互選、ビジョンに基づく事業の進捗状況等の報告及び次期ビジョンの策定についてのスケジュールの説明及び素案について意見をいただいた。

5 会議の内容

1 開会

美船課長：皆様、本日は大変お忙しい中お集まりいただき、本当にありがとうございます。時間となりましたので、これより、平成26年度第1回倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会を開催します。

2 委員の紹介

美船課長：まず始めに、会議次第の2番でございますが、委員の皆様のご紹介に入らせていただきます。前回の懇談会から約1年が経過しておりますが、その間、平成26年3月31日で委員の任期が満了し、4月1日以降引き続いて再任いただいた方、新たに委員をお引き受けいただいた方がございます。なお委嘱状の交付につきましては、本来ならば石田市長から皆様にお渡しするところでございますが、時間の都合上、皆様のお手元にお配りさせていただきますので、ご了承をいただきたいと思っております。それでは事務局の方から委員名簿の順に、本日の懇談会にご出席いただいております委員の皆様をご紹介させていただきます。なお、事前に資料と一緒に委員名簿を送らせていただいておりますが、名簿の差し替えがございましたので、本日お手元にお配りしております名簿によりご紹介をさせていただきます。

まず始めに、前回から引き続いて再任をいただいている委員の皆様をご紹介いたします。

まず鳥取短期大学の学長、山田委員様でございます。

続きまして、倉吉市学校教育審議会会長の小谷委員様でございます。

続きまして、とっとり梨の花温泉郷広域観光協議会会長の岩崎委員でございます。

続きまして、倉吉商工会議所専務理事の佐々木委員様でございます。

続きまして、鳥取県中部地域公共交通協議会の委員、福永委員でございます。

続きまして、リアルマック代表の福井委員様でございます。

続きまして、一般社団法人鳥取県ケーブルテレビ協議会を代表して、NCN倉吉放送センターのセンター長、太田委員様でございます。

続きまして、倉吉市の住民代表として、谷本委員様でございます。

続きまして、三朝町の住民代表として、布広委員様でございます。
続きまして、琴浦町の住民代表として、高塚委員様でございます。
続きまして、北栄町の住民代表として、福井委員様でございます。
次に、今回から新たに委員に就任された皆様をご紹介します。
鳥取県介護支援専門員連絡協議会中部支部の副支部長、安岡委員様でございます。
続きまして、倉吉市保育園長会の代表として、あゆみ保育園園長の村岡委員様でございます。
続きまして、特定非営利活動法人養生の郷事務局の牧野委員様でございます。
本日ご欠席でございますが、再任の委員様といたしまして、社団法人鳥取県中部医師会の会長、松田委員様、湯梨浜町の住民代表として遠藤委員様、また、新任の委員様として倉吉市体育協会の会長、生田委員様、そして、鳥取中央農業協同組合の参事、藤原委員様の4名の皆様にも就任をいただいております。

3 会長及び副会長の専任

美船課長：それでは、次第の3番でございます。会長及び副会長の選任に入ります。会長及び副会長の選任につきましては、本懇談会の設置要綱第5条第2項の規定により、懇談会に会長及び副会長をそれぞれ1名置き、委員の互選によりこれを定めることとしておりますが、どのような選出をいたしましょうか。

※事務局一任の声

ただ今、事務局の方で案があればというお声がありましたけども、それでよろしいでしょうか。

※異議なしの声

そういたしますと、事務局より会長及び副会長の選任につきまして提案をさせていただきます。本懇談会の会長として、前回の懇談会から引き続きまして、鳥取短期大学の山田委員様、副会長として倉吉商工会議所の佐々木委員様にご就任をお願いしたいと思っておりますが、皆様いかがでしょうか。

※拍手

ご承認いただき、ありがとうございます。それでは、山田会長様と佐々木副会長様におかれましては、大変お忙しいこととは存じますが、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

4 会長あいさつ

美船課長：そうしますと、次の議題に入ります前に、山田会長からごあいさつをいただきたいと思っております。山田会長お願いいたします。

山田会長：ただ今のご指名で会長を務めさせていただきます山田です。どうぞよろしくお願い致します。このビジョンは、平成22年から26年まで第1期のビジョンということで策定されたものです。その大きなテーマとして「自立と絆あるいは安らぎと活力」をスローガンにビジョン作りをしてまいりました。それにあたって、皆さん方からご意見をいただいたわけでありまして、これが26年度末に終わりますので、27年度からの新たなビジョンを5年計画で作ろうということが今回の主なテーマです。これに当たりましては、住民の方や専門家の方々のご意見を伺って作っていききたいということが、この会の主旨

でございます。どうぞ忌憚のないご意見を伺いしていただければと思いますので、よろしくお願いいいたします。

美船課長：ありがとうございます。

5 報告事項

美船課長：それでは会議に入らせていただきたいと思います。その前に事務局から、会議の事務連絡として2点ご連絡を申し上げます。まず1点目として、会議の成立要件についてでございますが、本日の出席委員は18名中ただ今13名の委員の方にご出席いただいておりますので、本懇談会の設置要綱第6条第2項の開催要件であります委員の過半数の出席を満たしておりますので、まずご報告を申し上げます。次に本日の日程でございますが、会議次第に基づきまして、報告事項、協議事項へと移ってまいります。会議は概ね1時間30分程度を予定しております。ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。それでは設置要綱第6条第1項の規定によりまして、これからの進行を山田会長様にお願ひしたいと思ひます。ではよろしくお願ひいたします。

山田会長：さっそくですが報告事項に入ります。報告事項(1)定住自立圏共生ビジョン掲載事業の取組状況について事務局から説明をお願いします。

竹田主任：それでは、資料1から説明をします・・・

※資料1から4までを説明

山田会長：ただいまの事務局の説明について、質疑はありませんか。

谷本委員：平成25年の実績と26年の予定というものがありますが、26年というのはこれからの話ですか。26年はもう終わりますけども。

竹田主任：会議の開催時期が遅くなってしまいましたので、こういった表記になっておりますが、全て終わっているわけではございませんが、終わっている事業もございますし、現在実施中の事業もございます。また、年度の話になりますので、25年度の部分につきましては完了しています。

谷本委員：年度とは何月から何月までですか。

竹田主任：4月から3月までになります。

6 協議事項

山田会長：次の協議事項については、第2次定住自立圏共生ビジョン、それから2つめに共生ビジョン策定スケジュールとありますが、先の事をしっかり押さえたうえで進めた方がよろしいと思ひますので、まずは2番目の共生ビジョン策定スケジュールについて説明をお願いします。

竹田主任：それでは、策定スケジュールについて資料6により説明します・・・

※資料6について説明

<質疑応答>

山田会長：只今の事務局の説明について、質疑はありませんか。

谷本委員：これから次のビジョンの計画に入るわけですが、今まで1億8千万というすごい金額が使われているわけです。これによる成果がどうなのか、これをやってきた中で反省点はどうか。その辺のところはどうなのか、押さえられておりませんと、次の計画を立てられないと思うのですが、その辺りはどうですか。

美船課長：谷本委員のおっしゃる通りでございます、この間、取り組んできた事業の成果や振り返りというのは、各専門分野の担当者会で、これは、それぞれの所管の課でございますが、産業関係ですと商工課や農林課、そういったそれぞれの部門で、過去の振り返りをしながら新しい事業等を計画し、新しいビジョンに向かっていくということに致しております。つまり、それぞれの振り返りが元となって、これから説明させていただきます新しいビジョンへ向かっているということは、ご理解をいただきたいと思っております。

谷本議員：そういうところは押さえてあるのですか。

美船課長：はい。その辺りは、一応議論等しております、こういったところができていない、これからもこれを続けたいいけないという議論を形でまとめたものが、これから説明をさせていただきますビジョンでございます。

谷本議員：わかりました。

山田会長：それからこの懇談会自体も、策定に当たっての意見と、その後の5年間に適宜進行管理を行うということが任務になっています。

村岡委員：資料5-1の方の中で、12ページの「6 教育」のに認定こども園が9園と幼稚園が4園と書いてありますが、平成24年度から各市町村で認定こども園の設立が高まっていて、倉吉でもすでに3つの幼稚園は認定こども園になっています。したがって、市内には今現在幼稚園という施設はなくなっていると私は解釈していたのですが、幼稚園が4園と上げてある中身をお聞きしたい。また、認定こども園についても9園とありますが、私の認識では、10園、倉吉が3園と琴浦が2園、北栄も3園で三朝・湯梨浜がそれぞれ1園ずつと解釈をしていたので、その内容についても説明をお願いしたいと思います。

竹田主任：詳細は手元の資料では、現時点で分からないのですが、昨年度末に取りまとめたデータをもとにしてしまして、最新のものでないところがございます。こちらの方は子育ての関係の担当課の方に確認をして、最新のものに改めさせていただきます。

山田会長：この圏域の概況というのは、現時点、出すときの時点ということですか。

竹田主任：それが好ましいですが、ものによっては纏まっていないデータがございますので、作業時点で集められる情報というようなことになります。

山田会長：このビジョンは、一応来年の3月付けで出すのですよね。それにできるだけ近い情報で内容を確認するようお願いいたします。

谷本委員：地産地消のところ、14ページですけども、JA鳥取中央さんがハワイゆめマート等のいろいろな直売所を設けておられまして、販売額も23年に14億円を超え、その後も増加を続けています。非常にすごいことですよね。それで、私が見るところによるとほとんどが地元のお客さんだと思います。赤崎と大栄は、9号線を通る地域外の方が訪れることもあると思いますが、羽合、未来中心の中、八屋などでは、ほとんど地元のお客さんじゃないかと思っております。私は、これがもったいないと思っております。やはり鳥取県の中中部地区の全国に誇る強さというのは野菜などの農産物だと思います、県外からもお客さんを呼ぶようなことをやらないともったいないでしょう。年に1度、ラグビー場の辺で食のフェスタを開催しておられますが、なぜあれをイベントで終わらせてしまうのか、あれを常設でやって、全国からお客さんにどんどん来てもらうというような方向に持つ

ていかないともったいないと思います。そういうようなことをやるのが、このビジョンの目的じゃないかと思います。今までやっているいろいろなこと、この1億8千万の内容を見る限り代わり映えするものがない。だから私は、この取り組みの成果とはなんなのかと感ずます。例えば、スイカ長芋マラソンですが、あれは別に定住自立で取り組まなくても、以前から取り組んでいる事業です。これを、もっと全国からお客さんを呼ぶために予算的な問題を解決するよう、この取り組みで解決しようという話なら分かりますが、このビジョンの内容を見てみると、既存の事業をポンポンポンと当てはめてあって、これが1億8千万円になる。これではもったいない。また、石破大臣が、地方創生をやってくれとおっしゃられています、私は予算的なものは、定住自立圏だけでなく、地方創生の予算を組み入れてみてはどうかと思います。そして、予算は関係なしに、事業をどのように発揮させるかっていうようなことをやっていかないと、なんだかあんまり変り映えしないと思います。私は、全国色々な場所を回ってみましたが、この中部地区の住みやすさは日本一だと思います。しかし、稼ぐ当てがないと感ずます。だからどんどん学生が出ていってしまって定住に結びつかない。やっぱり、この強さを発揮して、ここから産業を興して、働き場所をどんどん増やしていくという方向にする必要があると思います。ですから予算というものを再認識する必要があると思います。建物では絶対勝てません。だから既に持っているものの良さをよく見て、何を売ったらいいのか、どんどん外から人が来てもらって活性化していくというようなこと考えたい。そして、やっぱり食のフェスタをイベントで終わらせるのは本当もったいないと思います。

美船課長：ありがとうございます。確かに現在は地産地消の拡大事業ということで、地域内での消費拡大という側面で支援をしておりますけれども、今委員がおっしゃられた地方創生という新たな取り組みも出てまいります。平成27年度中に各市町で地方版の総合戦略を立てるという取り組みが始まることを予想しています。その戦略を立てるための支援として中部定住自立圏でも職員研修のようなものも予算化をしていきたいということを考えておりますけれども、今現在の中部定住自立圏の取組というのは財源措置としての交付税の措置というところに留まっているということがございまして、なかなかダイナミックな次の展開へ進みにくい状況があるということが1つございます。そういった中で地方創生という新たな枠組みで少しでもスケールアップが図れるようなものについては、またそこで取り組みを進めていくようなことを各市町と連携しながら考えていき、またこの定住自立圏と相乗効果と言いますか、役割分担と言いますか、それぞれの計画で上手い棲み分けをしながら、中部圏域全体がレベルアップしていくような取組を考えていきたいと思っています。

谷本委員：我々民間としては、定住自立圏も地方創生も関係ないのです。どうするかということなので、そういうものがいろいろあるのが不思議に思います。なんでこんなバラバラでやるんですかと。目的は地方を元気にしてやることだと思います。定住圏の問題も日本創生も。やっぱり目的は一緒だと思います。一緒なのに別々にやろうとしています。僕らは分からないのです。結局は、ぼわっとなってしまうので何もできていません。民間の感覚だと、目的は何ですか、この目的を達成するためにならどうするんですかという

ことからやっついていかないと、やっぱり成果があがりませんから。

山田会長：おっしゃることはよく分かりますけども、市の立場から言うとお金の出所に合うような取組を組まざるを得ないということなので、定住自立圏はこういう取組みだから出るということに合わせている。地方創生というのは、今度は自分達からのダイナミックに発信するというようなことで、今回は2つの組み合わせるといふそういう時期に来ているのだと思います。それでちょっとここで、表紙の裏側の目次を見てください。ここに第1章としてビジョンの目的などのビジョンの外殻が書いてあって、第2章では現在の中部の状況が書いてあります。第3章ではより中部圏域の課題や今後の可能性ということで、将来像を描いて具体的にどういふ取組を進めてみようということが書いてあります。これをまとめたものが23ページの内容になります。ここに、この中部の目指す大きなビジョンを掲げ、そのためにはこういうような協定をしないとイケないということになっています。ようするに、協定をして具体的な取組を行い、それを予算化していくという話だろうと思います。これについて、これをやるために、今一生懸命取り組んでいるところです。多分、この中から僕ももっとダイナミックなものが出てきたらいいなと当初から思っていたんですが、これがなかなか難しい。それを今度の検討課題として入れ込もうということで、今回入れさせていただいている。こういうことだと思えます。それからもう少しこんなことを入れておこうということがありましたら、この検討課題に入れていただいて、今後それを検討してもらおうというに持って行ってくれたらいいと思います。

谷本委員：それじゃあ、さっき言いましたけど食のフェスタをイベントで終らせず、通年のものにしていくということを検討課題としていただきたい。

山田会長：僕もそのような流れで事前に看護大学入れといてくださいって言ったんですね。

福井(恒)委員：63頁のマネジメント能力の強化についてなんですけど、これは意見ではなくて、確認の意味で聞きたいんだけど、自立圏構想と地方創生の職員合同勉強会というのがありますが、対象の職員というのは、行政の職員の方オンリーということですか。

竹田主任：こちらの方は行政職員を対象とした研修会を考えています。

福井(恒)委員：例えば今回このような民間の方や団体から、出てもらってるじゃない。僕らもやっぱり勉強する機会もあってもいい気はする。いわゆるその地方創生っていうのは行政指導ではなくて民間から文字通り上がって行って、それが全国の1800の市町村が1800通りのやり方があっていいわけです。それが民間の方がいろんなアイデアを出すきっかけの場というのがあって然るべきだなと。そういうタイミングというか、そのような場を是非とも作っていただきたい。ただ、この職員の勉強会というのは当然良いと思いますけども、これ以外に設けていただくとかですね、あるいは民間の活動団体・企業等含めてそういう官官、官民が一同介して勉強するような機会もあってもいいかなと、それを思って聞いたわけです。是非、それを要望として作っていただけたらと思います。

山田会長：細かい事で申し訳ないですが、16ページ、そちらの資料の5-2になるんですけども、ここに赤字で書いてある圏域の課題、暮らしを支える生活分野に関連する課題で、若年の妊娠が増加傾向にあり県内の人工中絶率が全国平均を上回る状況にあることから、思春期保健対策の推進が求められているというくだりですが、若年の妊娠が増えるのは悪

い事ではないと思うんですけども、そのことを人工中絶と結びつけてしまっている感じがするので、もし若年の人工中絶が多いのなら、若年の県内の人工中絶率が全国平均を上回るとしてしまって、妊娠増加傾向にあるという部分は切ってしまうと思います。妊娠が多いことが中絶の増える原因になるというのは直接関係ないのでは。

竹田主任：そのようにさせていただきます。

谷本委員：陸上競技場の駐車場の件が出ていますけど、現在はどのような現状なんですかね。

竹田主任：細かい状況は今分からなくて、すみません。説明できないので、また確認させていただきます。改めてお知らせさせていただこうと思います。

谷本委員：陸上競技場に限らず、野球場の方も駐車場が本当にありません。それで、噂によると倉吉で高校野球の県大会を止めようかというような動きもあるようですが、今の状況ではそういうことを言われても仕方ないですね。あの界限に土地はあるわけですから、やっぱり駐車場はきちんと整備して、鳥取米子より倉吉は駐車場の問題は心配ないというくらいのをしめせんと、もったいないと思いますね。陸上競技場から野球場の界限は山ですからいくらでも駐車場作れると思いますし、土地も安いでしょうし、是非立派な駐車場をつくってもらいたいですね。

山田会長：今日は、こんな膨大な資料で、急に話があっても分からないことがあると思います。この場でお聞きしていてもあれなので、勝手ですが、おかしいなとかこうして欲しいとか、そのようなご意見があれば、事務局の方に26日までに言ってください。事務局は、それを受け止めてください。そして、参考にしてください。もちろん今日のご意見は今日のご意見ですが、26日までにそういうご意見があれば、担当の部会でもそれを参考にしてどうするかも検討してやってください。限られた時間で大変でしょうが、そのようにさせていただきます。とりあえず、ビジョンの素案とそれに対するご意見、タイムスケジュールについては終わりますが、その他で何かありますか。

7 その他

遠藤課長：琴浦町企画情報部の遠藤でございます。今日はこのビジョンの素案には掲載されていませんが、琴浦町で新たな取り組みの案がございますので、そのことについてご説明をさせていただきますと思います。今日お配りをさせていただきました資料を元にご説明をさせていただきますので、よろしくお願いをいたします。

まず琴浦町の新たな取り組みの提案でございますけども、まず政策分野としましては産業振興です。協定項目としましては、「広域観光体制の充実及び強化による広域観光の推進」で、具体的な事業名としましては、「八橋往来周辺の魅力創造発信事業」というものでございます。概要といいますか考え方でありまして、現在八橋往来周辺の歴史や文化、この資料につきましては各市町で独自の取り組みというものをもとめています。この独自の取り組みだけでなく、各市町で連携協力することで、更なる取組の強化と文化資源を観光資源ということに位置付けて、今後の取り組みを図っていくことで市町とその周辺の活性化を図りたいというものでございます。内容についてはそこに書いておりますが、まず八橋往来については、皆さんご存知だとは思いますが、これは伯耆の国の中心とした倉吉と八橋というものを結ぶ奈良時代からの街道というものでございます。さらには、200年前には伊能忠敬もこの街道を歩いて測量を行ったとい

うようなことが伝えられておりまして、この街道というのはかなり有名なものでございまして、国の夢街道モデル地区、皆さんの資料にもつけておりますけども、この夢街道ルネサンスというものにも認定をされた街道でございます。その中で、八橋往来の周辺には数々の文化歴史の資源というものがございます。琴浦町におきましては、この八橋往来が津田公殿様街道、八橋城主でありました津田公の殿様が通った街道ということで、琴浦町では津田公殿様街道というようなもので夢街道に認定をしていただいておりますし、周辺には芥尾廃寺跡でありますとか、本年10月に国の史跡になりました大高野官衙遺跡、こういうものもございます。更には倉吉市には白壁土蔵群というものがこの八橋往来の周辺にあるというようなことで、そのような歴史的な遺産、文化的な遺産を観光資源としてなんとか役立てていきたいというようなことでございます。これらの歴史的遺産とそこに伝わる文化を観光資源として認識し、これらを調査研究するというところで、ブラッシュアップして、新たな観光資源として、その魅力を中部はもとより県内外に発信PRする。またイベント等を開催して観光客の誘客につなげるというようなことを取り組んでいきたいと考えています。その中で、各市町での連携の取り組みというものでございますけども、下の方に27年度から31年度の取り組みを簡単に記載しておりますけども、その素晴らしい資源を、周辺の地域の方、行政共々一緒になって将来に残していくということと合わせて、多くの方に認知していただきたい。認知していただいて、来ていただきたいという取り組みが重要であると考えております。その中で、この八橋往来、すべてのルートがきっちりわかっているということではございません。途中わからない部分もあるということを知っておりますので、そのルートを解明したいというようなことを思っています。もちろん全て解明できるとは考えておりません。その辺りを通ったであろうところまでを解明していきたいと考えております。倉吉市と琴浦町については、概ねこの辺りを通ったのだらうなというものがわかっておりますが、北栄町内はなかなか分からないということがありましたけども、今月の12月号の北栄町さんの町報を見ますと、たまたまでありますけども、文化財巡りということで、八橋往来に関する記事が載っておりました。その中でも岩坪でありますとか茶や条の辺りが八橋往来ということが分かっているというようなこともありましたので、倉吉から八橋までのルートを解明したい、まず解明したいというものでございます。その後に各市町での文化歴史の資源を磨き上げるということ、それと、更には周辺の農林業の特産物、そういうものも合わせた取り組みができないのかなというものでございます。更には、琴浦町ではこの街道沿いには地域を元気にしたいという活性化団体もございます。白鳳の郷という活動団体でございますけども、私もよくわかりませんが、多分倉吉市もあると思います。そのような活動団体が連携することによって更なる取組が強化できるのではないかと考えておりまして、まずはルートの解明、それから周辺の観光資源の調査、それと関係団体間の連携というものを第一弾として行いたいというものでございます。第二弾につきましては、そうやって連携強化に取り組む中で、シンポジウムを行って各市町の協力でありますとか、活性化団体の協力、そういうものを通じながら各中部の方また中部以外の方、町外県外の方に発信していく意味でもシンポジウムを行いたい。そのシンポジウムにより程度認知されたならば、次の段階としては、

今一般的になっていますけども、ウォーキングというものを行っていきたい。倉吉から八橋までのルートを、だいたいこの辺りを通ったというようなことで、その道をウォーキングの公式なルートにしたいと思います。それを毎年行って賑わいのある周辺地域にしたいというような思いがありまして、この事業を提案させていただくものでございます。よろしく願いをいたします。

山田会長：何か今のご提案に対して、ご質問やご意見がありましたらお願いします。そうしますと、各専門分野の部会で前向きに検討していきたいと思えます。

他にいかがでしょうか。委員の方から、ここは是非言っておきたいということがありましたら、どんなことでも結構です。

佐々木副会長：広報というところで、中部と言いつつ、地域ごとに広報の情報が全然違ってしまっていて、例えば地域のイベントやら何やら、人々は交わっているのですが、情報は交わっていない現象が見られるものですから、やはり同じ地域で暮らしているものですから、そういう情報が行き交うようなことをしていただくと、更に皆さんの圏域の意識が強くなるのではないかという感じがしますので、ご検討いただけたらと思えます。

太田委員：それぞれ政策の立場というのがあるとは思いますが、それぞれ自治放送を相互放送できないかということで、定期的には検討会と言いますか話し合いを持っておりますし、今後もそういった、相互放送できるようにということで、務めていきたいと思っておりますので、また周辺の市町の自治体さんの方からも要望として、声を上げていただければやりやすくなるのかなとは思っていますので、よろしく願いします。

山田会長：じゃあ協議事項はここまでとさせていただきます、事務局からその他お願いします。

美船課長：そういたしますと、今後のこととさせていただきますけども、ただ今ございましたようにたくさんいただいたご意見、あるいは12月26日までにいただける意見、そういったものを各専門分野の部会において各市町の担当者が集まりまして、検討させていただきます。その結果につきましては次回のビジョン懇談会で報告をさせていただきます。また、次回のビジョン懇談会につきましては、年明けの1月23日金曜日、午後1時30分からを予定しております。この倉吉市役所の方で行いたいと考えておりますので、皆様お忙しいことと思えますけどもご出席をいただきますようお願いをいたします。また詳しい内容につきましては開催通知を送らせていただきます。また、ビジョン懇談会に先立ちまして、担当課長会を開催したいと思えます。担当課長会につきましては1月20日月曜日に行います。午後1時30分から市役所の方で行います。これにつきましても改めて文書の方を送らせていただきます。それでは、事務局からは以上でございます。

山田会長：それでは、今日はどうもありがとうございました。